

腹腔鏡下手術を受けられる方へ

1. 腹腔鏡下手術とは

お腹に数か所の小さな穴（2～4か所）をあけ、炭酸ガスを入れてお腹の中を膨らませてスペースを作り、そこからスコープや器具を入れて手術を行う方法です。



腹腔鏡下手術の様子

腹腔鏡下手術後の傷（4箇所）

12 mm前後の穴が2箇所、5 mm前後が2箇所（基本）

2. 腹腔鏡下手術のメリット

腹腔鏡下手術は開腹手術と比較し以下のような特徴があります。

1. 手術の傷が小さく美容的
2. 術後の痛みが軽い
3. 入院期間が短い（早く退院できる）
4. 早期の社会復帰
5. 術後の癒着が少ない（卵管などの癒着が起こり難く、術後不妊症になることが少ない）

しかし、腹腔内の状態や手術の難易度により以下の留意点があります。

1. 開腹手術への移行：腹腔鏡下手術が安全に行えないと判断した場合
2. 輸血：術中・術後に予期しない出血があった場合
（全症例で術前に輸血の同意書をいただきます）
3. 最終診断は術後の組織検査で確定：術前診断と異なる場合、開腹手術が必要になる可能性
4. 他臓器の損傷：隣接臓器である尿管や膀胱、直腸の損傷
（子宮内膜症などで高度な癒着がある場合）

3. 腹腔鏡下手術以外の治療の選択肢

1. 良性卵巣嚢腫： 経過観察、開腹手術
2. 子宮内膜症： 経過観察、開腹手術、ホルモン療法
3. 子宮筋腫： 経過観察、開腹手術、子宮動脈塞栓術（UAE）、
集束超音波治療（FUS）
4. 不妊症： 体外受精など
5. 子宮外妊娠： 開腹手術、薬物療法

4. 入院期間、費用

原則として入院期間は5泊6日（手術前日入院、術後3日目退院）ですが、手術の状況や術後の経過に応じて延長となる場合があります。手術はすべて健康保険が適応され、手術の種類により費用は異なりますがおおよそ40～80万円で、その3割が自己負担となります。（高額療養費の検討が可能です）

5. 入院後のスケジュール

入院	手術	術後1～3日目	術後4日目
問診、シャワー	朝：点滴 麻酔：全身麻酔	朝：採血 膀胱カテーテル抜去 ドレーン抜去 食事開始	退院

（症例に応じて手術前日夜、当日朝に浣腸を行う場合があります）

※術中の所見により入院期間が延長することがあります。また、症例に応じて採血やレントゲン、診察、治療が追加される場合があります。

6. 術後の診療について

当院での外来経過観察を行います。かかりつけ医へ逆紹介となることもあります。ご理解をお願いします。

上記の内容について、外来担当医より説明を受けました。

署名： _____